

農業経営の第三者経営継承のすすめ

農村の課題として、高齢化や後継者不足等による担い手農家の減少で荒廃農地や、空きハウスなどの増加、トラクター等の農業機械の遊休化が進んでいます。一方で、新規就農したい相談者も多数いますが、親元就農でない新規就農者は農業経営開始にあたり多額の初期投資が必要であることが課題です。

そこで、県では、農業経営の第三者継承を進めており、後継者のいない農家が有する経営資産や営農技術等を第三者である就農希望者に継承することを支援しています。

1 移譲農家が準備しておくこと

- (1) 資産に係るデータの整理
 - ア 農地の状況確認
 - イ 所有する機械・施設等の確認

(2) 移譲希望者の登録

「移譲希望者登録申書」が必要です。
まずは、市町農政担当課または農政普及課にご相談下さい。

2 まとめ

農業を維持するには、資産と技術が引き継がれていくことが大切です。
第三者継承は、地域農業や担い手確保のための有効な取組の一つです。



写真1 管内でも第三者継承が進められました



写真2 詳しくは「さくらじまネット21」でご覧ください
(右のQRコードよりアクセスできます🔗)



始良地区青年農業者会議が開催

12月12日、国分公民館中会議室で始良地区青年農業者会議が開催され、青年農業者8人を含む32人が出席しました。

当日は、2人の青年農業者が農業経営上の課題解決を目的としたプロジェクト活動の発表が行われたほか、気候変動による危機管理対策をテーマに、各種保険制度に関する情報提供が行われました。指導農業者からの助言もあり、経験の浅い青年農業者や新規就農者にとって、自身の営農活動を考える機会となりました。

農政普及課では、今後も青年農業者の営農活動を支援していきます。



写真 始良地区青年農業者会議が開催

赤系ぶどうの着色向上技術について

近年、着色期の夜温が高く、着色系ぶどうの着色不良が問題となる中、着色促進効果のある天然物由来アブシシン酸含有の植物成長調整剤が令和7年3月に「巨峰・ピオーネ」から「巨峰系4倍体品種」に適用拡大登録されました。

今回、令和7年度に実施した赤系ぶどう（クイーンニーナ）での実証結果を踏まえ、赤系ぶどうでの効果的な使用方法や留意点等について紹介します。

- 1 商品名
アブサップ液剤（以下、S-ABA）
- 2 効果の仕組み
アブシジン酸（植物ホルモンの一種）が、色素成分「アントシアニン」の生成を促し着色を向上。
- 3 使用方法
着色始期～着色開始2週間後にハndsプレー等で果房にムラなく散布（2～10ml/1果房）。



処理時（7/23）



収穫時（8/18）

写真1 処理前後の着色状況

- 4 結果
 - (1) 処理時期は、着色始期（7/23）であったが、収穫時（8/18）における果実は完全に着色した（写真1）。
 - (2) S-ABAを100倍又は200倍で散布ムラのないように散布することにより、処理区は着色が向上する（写真2）。
 - (3) 黒系（巨峰・ピオーネ）と比べて赤系品種では200倍でも着色効果は十分であった。なお、環状剥皮との併用は効果が出る過ぎる恐れがあると推察された。



無処理区



処理区（200倍）



処理区（100倍）

写真2 各区の収穫期の着色状況

- 5 留意点
 - (1) S-ABA処理により、品質（糖度や酒石酸）が向上するわけではありません。収穫に当たっては、品質を必ず確認してください。
 - (2) 薬液がつきすぎると果面の汚れや果粉溶脱の恐れがあるので、果房からノズルをやや離して、なるべく細かい霧状の散布を心がけてください。（ムラのないように果房全体に散布してください）

令和7年3月現在、S-ABAの登録は「巨峰系4倍体品種」に適用拡大され、着色系品種（黒系・赤系）での着色不良を改善する対策としてさらなる普及が見込まれています。

しかし、着色向上技術の基本は適切な果房管理、ビニール除去等です。まずは基本管理を励行し、S-ABA剤を効果的に使用することで気候変動（着色期の高温）に左右されない高品質なぶどうづくりを目指しましょう！

BLOF理論に基づく土壌改善と収量効果について

夏季の高温や豪雨などの気象変動により、夏場の作物生産は不安定になっています。そこで、気象変動下でも、生育が安定しやすい土壌環境をつくとされる「BLOF理論」に基づいた土壌環境改善による収量効果について検討しました。その結果、処理後は土壌が柔らかくなったことが確認されました。また、ニンジンでは茎葉および可食部が大きくなり、一個あたりの重量が増加しましたので紹介します。

1 実証ほの概要

実証ほ場	中熟堆肥散布	陽熱養生※ 処理開始	被覆期間
黒ボク畑	7/24	8/1	2/8
シラス畑	なし	9/5	1/13
水田	8/19	8/26	1/16

※陽熱養生処理とは：糖蜜液で納豆菌，酵母菌，乳酸菌をそれぞれに培養してバイオ液とし，その約100倍の希釈液を畝に散布した後，透明マルチで被覆した（写真1，2）。



写真1 バイオ液



写真2 陽熱養生処理

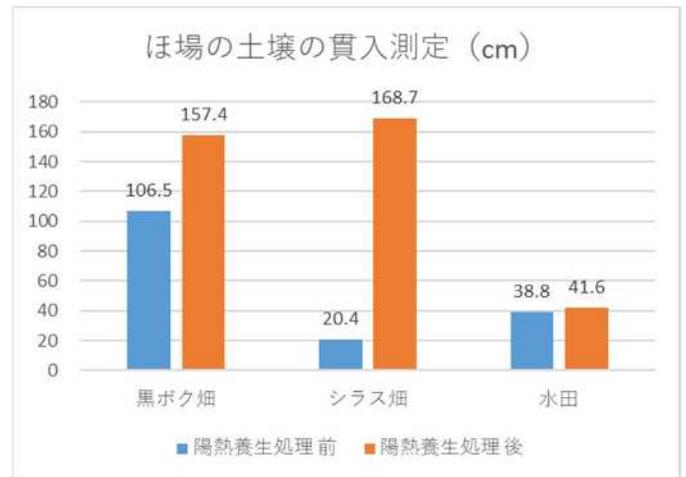


図1 陽熱養生処理前後の貫入比較

2 結果

- (1) ほ場の貫入測定は、畑では陽熱養生処理後に貫入の深さが処理前に比べて深くなった。一方、水田では、処理前後であまり差が見られなかった（図1）。
- (2) ニンジンは茎葉、可食部ともにサイズが大きく、一個重が重くなった（写真3，図2）。



写真3 実証区（左）慣行区【右】

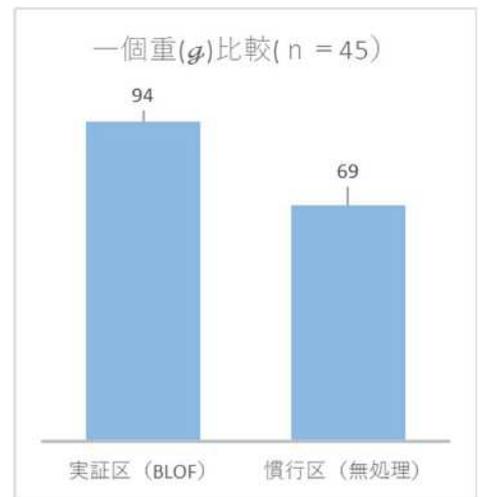


図2 ニンジンの一個重の比較

3 留意点

ほ場条件により効果にばらつきがあったので、今後も年次比較などの検証を引き続き行う予定です。

子牛の全頭体測調査による発育の変化について

県肉用牛振興協議会始良支部では、平成27年から、9月と2月の子牛セリ市において、全頭の体型測定を実施しており、その結果について紹介します。

●体型測定平均値の推移について

- 出荷日齢は、目標の260日以内を達成しておらず、平成27以降は延長する傾向。日齢体重は、令和3年まで増加傾向にあったものの、以降横ばいで推移。(図1)
- 体高は、平成29年以降大きくなる傾向にあったが、令和5年以降は低下し、横ばいで推移。日齢が延長していることから、発育度合い(σ 値)は低下傾向。(図2)
- 腹囲/胸囲(腹囲と胸囲の比率)は、胸囲が大きくなった一方腹囲に変動が少ないことから、減少傾向にあり、胸囲/体高(胸囲と体高の比率)は、胸囲が大きくなったことから、令和5年以降増加傾向(図3、図4)

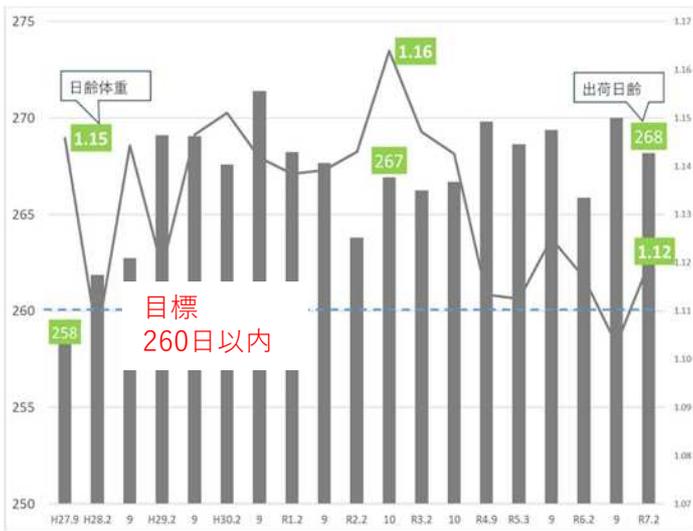


図1 出荷日齢と日齢体重(去勢)

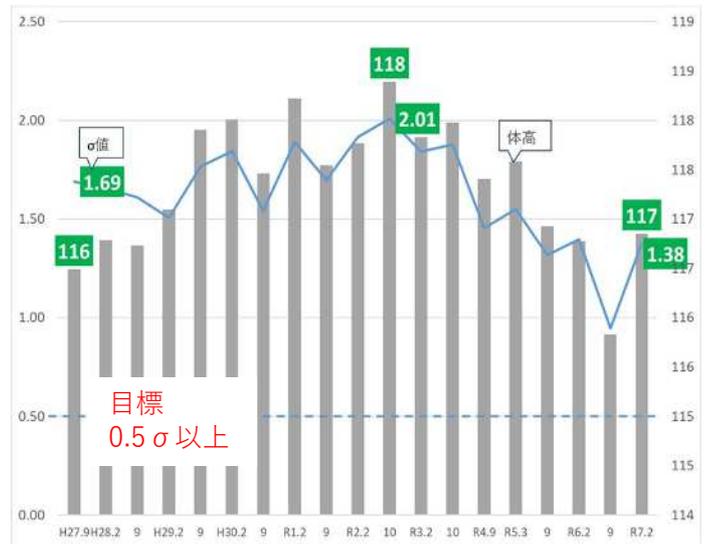


図2 体高と σ 値(去勢)

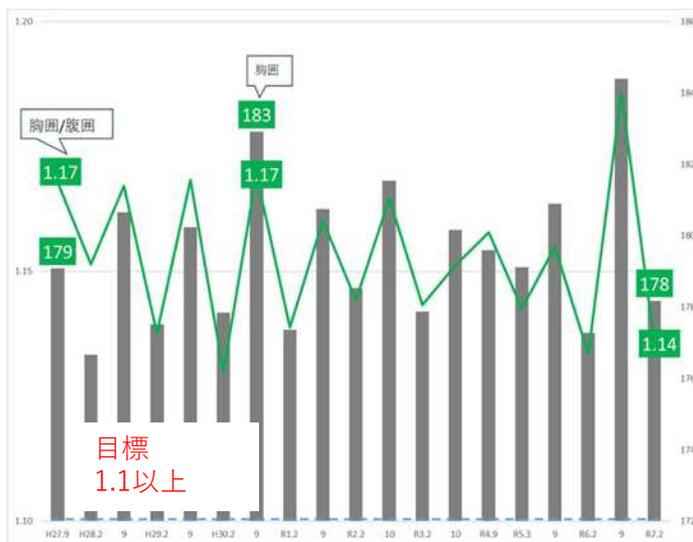


図3 腹囲/胸囲(去勢)

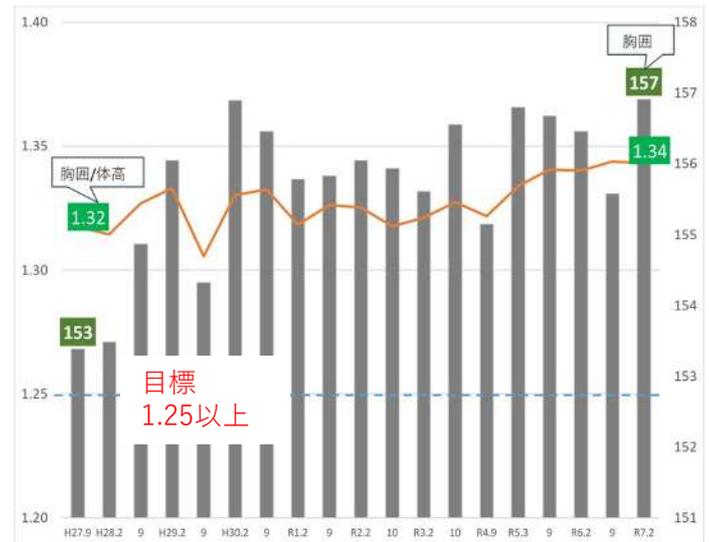


図4 胸囲/体高(去勢)



さいごに

あいら子牛育成飼養管理マニュアルを活用し、骨格が最も発達する4~5か月齢の飼養管理の見直しなど、あいら子牛のさらなる商品性向上に努めましょう!

発育がよい牛は、早期出荷し、市場全体のばらつきをなくし、始良市場の評価を高めましょう!

